

## —巻頭言—

# 「放送大学」— 近未来の大学像を先取りした教育システムと財宝



沖縄学習センター客員教授  
仲座 栄三

ソウル（音楽）の神様と呼ばれるレイチャールズ（Ray Charles Robinson）は、「見えるものといえば貧しさのみであった。見える物の中で、自分たちの生活レベルより低いものと言えば地面しかなかった」と述べている。5歳の頃に弟がバスタブで水死するのを目の当たりにする。7歳の時失明。15歳の彼に、お母さんは死の床で次の言葉を残した。“You might not be able to do things like a person who can see. But there are always two ways to do everything. You’ve just got to find the other way.” 「人と同じ道を必ずしも歩けるわけでない。しかし、何を成すにしても方法は一つとは限らない。自分にできる方法が必ずある」と教えている。レイチャールズは自分の方法で、ソウルの「神」と呼ばれるまでになった。

ある日、通信教育による高等学校の入学式に参加する機会を得た。初めて参加したその入学式で目にしたことは、これまで当然として経験してきた入学式とは驚くほどに異なっていた。思いおもいの服装で、思いおもいの髪型で、そして思いおもいの歩調で花道を進み席に着く学生達。一言でいうのなら、私には、彼や彼女らの姿がどこことなく下向き加減に映った。3年後、今度は卒業式に参加することとなった。入学式で見たあのどこことなく下向き加減の彼や彼女らの姿はどこにもなく、笑顔に満ちて、小走りにすら花道を進む彼や彼女らの姿に、ただただ感動し、涙が止まらなかった。時や機会は、かくも人を変えるのか？ レイチャールズのお母さんの言葉が思い出されるのであった。そして、我々が大多数と画一化の中で見落としてきた教育の本質が、ここにあるのではなかろうか？と考えさせられたのであった。

10数年前のことであったが、大学生の200名ほどに放送大学のある科目を提供するという機会を得た。学生達は、教室でビデオを聴講するわけだが、それが容易なことではないようだった。学生達には中間レポート提出、期末試験が課されたが、最終的に単位取得できたのは全体の2割ほどもいかなかったと記憶している。その時、放送大学の単位取得が、通常の大学で行われる単位取得と比較にならないくらいに難しいものであることを痛感させられた。また、学生と共にビデオを聴講し、その内容の高さと質の豊かさにも驚かされたものである。

放送大学で提供されている科目や内容については、全国の大学からそれ相応の教授陣が集められ編集されている。そのためか、それらの内容は豊富で多様なものとなっており、レベルについても私の経験から判断するとやや高め、いわゆる国立大学等で教えられている教科の内容やレベル以上のものがある。いくつかの科目については、「これが教養科目としての内容か？」と驚かされる程である。

私は、放送大学の客員教授としての機会を拝命いたし、この4月より週に1日出勤している。驚かされたことは、学生達の年齢層の多様さ、そして学生達のレベルの高さである。大学教員ではないの？と首をかきあげるほどに豊かな経験と専門能力を有する方もおられる。かような内容とそして厳格な成績評価の中を4年の期間で卒業する方も多くおられると聞いてさらに感動させられた。なんと、放送大学を3回卒業される方もおられる。「人材難」とこれまでによく耳にしてきたことであるが、ここはまさに「人材豊富」な別世界である。近未来の大学像が、ここに先取りされている。このような財宝が、社会に新しい波と希望をもたらすに違いない。「方法は一つではない」。



5月に行われた公開講座の様子